

平成30年度 厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
分担研究報告書（職業肝炎ウイルス陽性者両立支援モデル班）

肝疾患診療連携拠点病院における両立支援（岡山大学病院の取り組み）

研究分担者：池田 房雄 岡山大学病院 消化器内科
研究協力者：難波 志穂子 岡山大学病院 新医療研究開発センター

研究要旨：2017 年度に岡山大学病院消化器内科肝臓外来定期受診患者に実施した職業アンケート調査では、肝炎患者では仕事に影響なしとの回答が多数を占め、7 割は職場の支援制度を利用していなかった。両立支援制度の認知度を高める必要があると分かり、2018 年度は岡山県肝疾患診療連携拠点病院として岡山県地域両立支援推進チームに参画、岡山労働局や産業保健総合支援センターと協力して、岡山県全体の両立支援セミナーや産業医、産業保健師などの研修会で、職場の健康管理担当者に肝炎啓発活動を行い、肝炎治療における両立支援制度利用促進の必要性を話した。同セミナー会場で肝炎検診やその後の仕事と治療の両立についての相談も受けた。院内での両立支援促進については、療養と仕事との両立支援に関わるカルテが整備され、利用開始したところである。利用促進のためシステム作りを進めていくことや、企業と医療機関との連携の必要性について院内研修会で啓発活動を行うことが必要である。

A. 研究目的

2017 年度は職域における肝炎治療と仕事の両立にどのような支援が必要であるか明らかにするため、岡山大学病院消化器内科肝臓外来を定期受診している患者に職業についてアンケート調査を実施した。肝がん患者と肝炎患者で職種や雇用形態の種類に明らかな違いは認めなかった。肝がん患者では自営業だと7割が事業休業縮小していたが、肝炎患者では影響なしとの回答が多数を占めた。また、肝がん患者の8割、肝炎患者の7割は職場の支援制度を利用していなかった。職域における肝炎治療と仕事の両立には両立支援制度の認知度を高め、利用しやすくする必要であることが分かった。この結果をふまえて、2018 年度は広く職場での健康管理部署担当者に肝炎啓発活動を行い、肝炎治療における両立支援制度利用促進のための工夫を考える研修を企画した。

B. 研究方法

岡山県地域両立支援推進チームに参画、岡山労働局や産業保健総合支援センターと協

力して、岡山県全体の両立支援セミナーや産業医、産業保健師などの研修会で肝炎啓発を実施。同セミナー会場での肝炎検診やその後の仕事と治療の両立について相談業務を行った。

C. 研究結果

(1) 岡山県肝疾患診療連携拠点病院として
2018 年 7 月 岡山県労働基準協会主催、岡山地方産業安全衛生大会
5 分間のミニレクチャーで肝炎啓発。同時に肝炎ウイルス検査イベントを実施。参加者 400 人のうち 119 人が受検。検査陽性者はゼロ。

2018 年 9 月 岡山労働局主催、岡山県地域両立支援推進チーム第 2 回会議
岡山労働局、県医師会、医療ソーシャルワーカー協会、県経営者協会、県社会保険労務士会、県保健福祉部医療推進課、岡山産業保健総合支援センター、岡山大学病院、岡山労災病院、日本キャリア開発協会、日本産業カウンセラー協会中国支部、連合岡山の担当者が出席。両立支援に関する各施設の取組につい

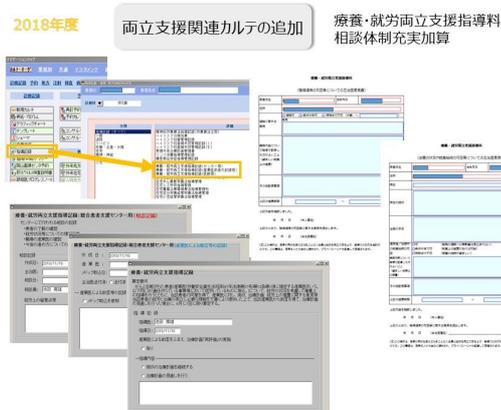
て説明、意見交換をおこなった。岡山県内の両立支援コーディネーター講習会受講者を把握する必要性あり。

2018年11月岡山産業保健総合支援センター主催、産業保健研修会における肝炎啓発講演および肝炎検診岡山、倉敷、津山の3監督署にて肝炎啓発講演を行い、講演後に会場にて肝炎ウイルス検査イベントを実施(岡山県下6監督署のうち昨年までに他の3署は実施済み)。

2019年1月岡山労働局主催、治療と仕事の両立支援研修会岡山県地域両立支援推進チームでの両立支援研修会において肝炎啓発講演を行い、会場にて肝炎ウイルス検査イベントを実施。

(2) 拠点病院としての院内での両立支援

院内での療養と仕事の両立支援に関わるカルテを整備し、利用開始。



利用促進のため医療連携の院内研修会での啓発やニーズを拾い上げるシステム作りを今後推進していく。

D. 考察

岡山県肝疾患診療連携拠点病院として

岡山労働局や産業保健総合支援センターと協力し、岡山県全体の両立支援セミナーや産業医、産業保健師などの研修会で肝炎啓発を実施。同セミナー会場での肝炎検診やその後の仕事と治療の両立について相談業務を行っている。

拠点病院としての院内での両立支援

院内での療養と仕事の両立支援に関わるカルテが整備された。今後の利用促進のため、利用ニーズを拾い上げるシステム作りを進めていくことや、医療連携の必要性について院内研修会で啓発活動を行うことが必要である。

E. 結論

岡山県肝疾患診療連携拠点病院として岡山県地域両立支援推進チームに参加協力することで、院外ではがん治療での両立支援とともに肝炎啓発の活動を行うことができた。一方、院内での療養と仕事の両立支援に関わる活動は、カルテが整備されたばかりで、今後の利用促進のためのシステム作り、医療連携の必要性について院内研修会での啓発が必要である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 発表論文

なし

2. 学会発表

1. 池田房雄, 難波志穂子, 岡田裕之 肝炎ウイルス高浸淫地区における愛育委員を活用した肝炎ウイルス検査イベント開催の試み **肝臓**59.Suppl.1 Page A538.2018

2. 難波志穂子, 池田房雄, 岡田裕之 扶養家族を対象とした肝炎検診の効果検証 **肝臓**59.Suppl.2 Page A727.2018

3. その他

啓発資料

*中四国ブロック合同の肝炎啓発用のポスターやちらしを作成し、肝炎デーに合わせて配布した。(別添)

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし

2. 実用新案登録 なし

3. その他 なし